

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0150280089		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲苑なえぼ (朝日)		
所在地	札幌市東区北7条東18丁目105-23		
自己評価作成日	平成 27年 8 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0150280089-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0150280089-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 9 月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鉄筋2階建て造りの1階部分が平屋造りの生活空間となっており、入居者様やスタッフが自由に往来でき、2ユニットで協力体制が取れている。明るく広々とした空間で入居者様がゆったりとした気持ちで、自由に生活が出来ている。同じ敷地内には、老人保健施設が併設しており、合同で行事を行い、一緒に参加することで外部との交流が身近に感じやすい環境になっている。また、母体が札幌東徳洲会病院なので医療連携がしっかり取れ、安心して生活を送ることが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、医療法人を母体として平成18年に開設、広い敷地に老人保健施設と併設しており、非常時の協力体制、教育や感染症などの各委員会、行事等で連携が図られています。地域の連合町内会長や福祉のまち推進センターとも協力関係を築き、地域の住民や子供達とも交流しています。運営推進会議には、家族も多数参加し、理解と協力が得られており、タイムリーな話題を設定して、共に学ぶ機会を設けています。また、母体の医療法人からの訪問診療や看護、他医療機関との適切な医療連携により、医療面での安心感が高く、終末期ケアにも取り組んでいます。建物内の共用空間は広々として、利用者のゆったりと寛ぐ姿が見られます。施設の行事に参加したり、庭先での体操や外気浴、歌唱などのボランティアの来訪、ゲームも多種用意しており、活動的な楽しみも多く提供しています。職員は、利用者とのコミュニケーションを重視して思いやニーズを汲み取りながら、個別のケアに努めています。年に一度、ホームの理念を振り返り、新たなケアの指針となる年度目標やユニット目標を設定して、ケアの質向上に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・明るく家庭的な雰囲気を大切にします。・地域に根ざし、豊かに暮らせる環境を大切にします。・自分らしく健康に暮らせる生活を大切にします。をホームの理念としている。	年度末に、現状が理念に合うものであるか全職員で協議し、次年度目標とユニット目標を定めています。理念はホーム内に掲示して、管理者が折に触れケアの実践が理念や目標に基づいているかを確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入できない環境にあるが、小学校や幼稚園等の訪問、行事、町内の催しなどは、お互い声を掛け合い交流は保たれている。	連合町内会長等を通して地域との関係性を深めています。地域の祭りやホームの夏祭りで交流し、併設施設の行事や小学校の運動会見学、ボランティアの来訪があります。時には花畑の手入れにも近隣の手伝いがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で毎月多種多様の講演会を開催し、年に2～3回は認知症についての講演を組み入れ、認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、地域自治会の代表、ご家族の参加で会議が構成されており、日頃の運営状況について報告をするようにしている。。	定期的開催される運営推進会議は、行政や地域代表、多数の家族が参加しています。事故報告も含め運営状況を詳しく報告し、活発な話し合いが行われています。今年度は講師を招いて成年後見人制度を学ぶ機会を設けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	全市や東区で開催される管理者会議には必ず参加し、必要時には連絡を取り合っている。	市や区の管理者会議に出席し、運営の課題等の情報を共有しています。必要時の連絡や相談のほか、提出物は直接持参し、関係作りを行っています。災害時要援護者ネットワークに参加し、連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成。虐待・身体拘束の研修を定期的に行い、虐待や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。リスク委員会で月に一度、事故やあざについての報告をし、内容や対策について話し合い、その結果を周知するようにしている。	毎月リスク委員会に事故等を報告して、検討課題にしています。マニュアルや資料を用意し、外部や伝達研修で内容の理解に努めています。施錠や服薬等にも気配りして拘束をしないケアを実践しています。気になる言葉も、互いに注意し合える環境づくりに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスク委員が中心となり、不審なあざや傷がないかを月毎にまとめ、委員会で報告し、原因の追及や防止について話し合い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている入居者を通じて学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、不安や疑問が無いかの確認をし、理解・納得を図っている。改訂については、運営推進会議を通じて周知すると共に、お便りでも周知するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時を通じて要望の確認を行い、年に一回事業所で行っているアンケートに答えていただき反映させている。	家族の来訪時には暮らしぶりを伝えて対話をしています。法人やホーム独自のアンケートを実施し、運営に活かしています。毎月個別の便りを送付し、活動や地域交流の様子、新人職員を報告しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見交換の場を設け、反映に努めている。	会議では、職員全員が発言できるように努めています。職員と面談の機会を持つ事もあり、相談に乗ったり、意思疎通を図って意見を聞いています。新人職員には知識や技術を尋ねて、互いに学び合う職場作りをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員の個性を理解し、各自が向上心を持って働けるように職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を考慮し、個々に合った研修内容であれば参加を促し、研修で学んだことをホームに持ち帰り他の職員へ周知できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者会を通じて同業者との交流やサービスの向上に必要な連絡を取り合い質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や話を傾聴し、安心して生活できる環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安、要望等を傾聴しながら、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要とする要望を尊重しながら、出来る範囲内で対応するように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において一緒に出来そうなところは、出来る限り行動を共にし生活している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を交換し、現状を伝え、面会や行動を通じて共有の時間を過ごして頂けるように努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたにも気軽に立ち寄って頂けるよう努めている。	徐々に馴染みの人や場所への関心が薄れていますが、故郷への帰省や施設入所中の家族の面会に行くなど、家族と協力して利用者の希望が実現できるようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ介入の下、入居者同士が会話やレクリエーション、作業を通じて交流が保たれるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された場合は、次の転居先を訪問し様子を伺い、家族からの相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から思いを汲み取るように努め、困難な場合は、出来る限り本人本位に検討している。	職員は、常に利用者とのコミュニケーションを取る事を重視して利用者の思いを引出すようにしています。困難な場合は、家族からの情報や日常の様子を照らし合わせ、利用者の視点に立ち検討しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、入居前のサービス利用先などより情報を提供して頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重し、自由な時間を過ごせるように努め、自ら参加できるような環境づくりに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、他職種者より情報収集を行い、知り得た情報を定期的に行われるケアプラン会議の場で話し合い介護計画の作成に反映させている。	介護計画は、3ヵ月毎のモニタリングやケアプラン会議を経て作成し、状態変化に即して計画を見直しています。全職員の気付きや情報を基に、利用者、家族との話し合い、セルフケアや医療面の情報も加味して、個別のニーズに応じた具体的な支援計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアプラン会議等で情報交換を行い、実践、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、いつでも話し合い変更が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に音楽や麻雀が出来るボランティアの受け入れをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望の下、適切な医療を受け入れられている。	個々の希望や状況により、かかりつけ医や母体である病院の訪問診療を利用しています。通院は家族の同行が基本ですが、職員の支援も行っています。看護師の訪問で日常の健康管理と医療機関との適切な連携を図っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護が来苑し、健康チェックが行われ情報交換を行っている。また、異常があれば電話で報告し、適切な指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には出来る限り面会に行き、面会できない場合は電話などで病院関係者と情報交換を行い、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に重度化や終末期のあり方について説明し、意向の確認を促ししている。	重度化や終末期の対応は、利用開始時や状態の変化に応じて家族に説明し、同意を得ています。医師の協力のもとに終末期ケアに取り組んでいます。職員はケアの心構えや対応を学びながら、利用者や家族の希望する暮らしを支えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、マニュアルを見ながらイメージトレーニングが出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練を行っている。	年2回併設施設と合同の防火訓練を実施し、ホーム独自でも訓練を行っています。災害時に必要な備蓄品の用意、避難場所の確認、緊急連絡網には地域住民や消防団員を記載し、災害時に協力を得られる体制を築いています。	火災以外の災害(地震や停電、断水等)や、様々な場面を想定したシミュレーションや対応策の検討、住民参加の訓練や、全職員が非常時に速やかに対応できるような訓練体制など、取り組みの強化を期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年のユニット目標を”互いに声を掛け合い心のこもった介護をしよう”とし、一人ひとりが意識するように心掛けている。	個々の利用者の思いを尊重し、見守る事を大切に支援しています。職員は接遇教育を受け、日頃のケアの振り返り、意識付けの機会にしています。個人情報も適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人の意思を尊重し、表出できる環境になるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを優先し、自分の意思で自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人の意思を尊重するように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや食べ易さを考慮し献立をたてている。職員見守りの下、野菜の下ごしらえ、配膳、下膳、後方付けをしている。	職員はバランスを考慮して献立を作成し、食事の作業や食事を利用者と共にしています。個別に食べ易い形状にしたり、栄養士によるカロリーの確認をしています。利用者は外食よりホームの食事を好むので、誕生会や焼肉会、お弁当の盛り付けで変化のある食事を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量と水分量をチェック表で把握し、その時の体調に合わせ、形態や味付け、内容を変えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し習慣となるようにしている。うがいが出来ず介助が必要な入居者に対しては、口腔ケア用ウエットティッシュで口腔内を清拭するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた声掛けを行っている。	可能な限りトイレでの排泄に向け、しっかりとパターンを把握して個別に支援しています。入居後に失敗が減少し、布パンツとパットに変更した利用者もいます。また、自然な排泄が出来るよう、食事や運動などに配慮をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れるように心掛け、毎食ヨーグルトを提供し、ヨーグルトが食べれない方にはバナナを提供するようにしている。その他、オリゴ糖を取り入れたり、便秘予防体操を行うようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週二回入浴日の設定はしているが、体調や気分によりいつでも変更できるようにしている。	週2回の入浴を基本として、その時の気分や体調、皮膚の状態によって柔軟に対応しています。入浴の不安感も解消しながら清潔保持に努めています。数種の入浴剤を用意して、入浴を楽しむように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じ休息を設け、就寝時間も各自の生活パターンに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気と内服薬の内容や副作用が分かるよう、薬のしおりをすぐに見れるようカルテに挟んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割分担の提供を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はなるべく外気に触れるように支援している。本人や家族の希望があれば出掛けられるよう支援している。町内のお祭りや行事に希望される時は出かけている。	利用者は、天気の良い時は庭先で体操や外気浴、敷地内の散歩や菜園の収穫を楽しんでいます。花見や紅葉、よさこいの見物は車両を利用して外出しています。戸外に出る事が億劫な利用者にも、声掛けを工夫して短時間でも気分転換できるような機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族希望により本人がお金を管理することはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、フロー内は季節感のある飾りつけを楽しめる工夫をしている。	共有スペースは、対面キッチンや食堂、居間を一体的に配置し、広い空間を確保しています。窓越しに中庭の木々の緑が臨め、季節感のある装飾、手製のカレンダーや鉢物なども置かれてあり、温かみある環境を作っています。大きなソファが配置されており、利用者全員のゆったりとした居場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるリビング内で自由に過ごして頂けるよう心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお任せしています。危険や不都合があった時には説明し模様替えをする時もあります。	入り口に利用者の写真を飾り、自室が分るようにしています。収納できる範囲で馴染みの物を持参してもらい、家具等の他に趣味の茶道具や家族や友人の写真も掛けてあり、居心地良く安心して過ごせる居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険要素を出来る限り排除するよう心がけている。居室入口には各自の写真を飾り、目印としている。		